

# 千葉駅周辺活性化の取組み

龍ヶ崎市役所都市整備部都市計画課 副主幹 櫻井 翔馬

令和5年1月24日（火）、公益財団法人都市計画協会が主催のまちづくりセミナーに参加し、そこで学んだ、駅前再開発などの千葉市の取組みについてご紹介いたします。

## ◆千葉市の概要

千葉市は千葉県のほぼ中央部にあたり、首都東京まで約40kmの地点にあります。県内幹線道路及び鉄道の起点として、県都にふさわしい要衝の地にあります。また、人口は増加傾向にあり、令和5年現在、約97.8万人となっております。

## ◆千葉駅周辺の活性化グランドデザインの策定

千葉駅周辺では、建築物の建替えが進まず、まちが大きな変化をしていないことなどにより、求心力の低下が懸念されてきました。しかし、JR千葉駅の駅舎・駅ビルの建替え、千葉駅西口地区及び千葉駅東口地区で実施・計画されている再開発事業、千葉公園の再整備など、リニューアルの動きが進んでいることから、これを契機と捉え、全体の将来像や取組みの方向性を明確にする必要があるとして、「千葉駅周辺の活性化グランドデザイン」を策定しております。

などといった、密度の高い駅前をイメージしておりましたが、実際の現地見学では、非常に開放感があり、かつ利便性が高いといった印象を受けました。駅前広場は大きく空地として確保されており、休日などはそこでマルシェなどが開催されることもあるようです。また、ひと際目を引く建物である「WESTRIO」については、事業の中核施設として計画された駅直結の3棟のビルであり、店舗や事務所、ホテルなどの施設が入っております。外観は水平性のイメージを強調することで、統一感を与えているそうです。これらの施設をはじめとして、全体がとても調和された先進的な再開発事業となっており、千葉市の工夫をととても感じました。



WESTRIOの外観



マルシェの様子



千葉駅西口地区再開発全体写真



グランドデザインの概要

## ◆千葉駅西口地区再開発について

ここからは、実際に現地見学を行った千葉駅西口地区再開発についてです。こちらの再開発事業は2つの工区（A・B）にわかれており、それぞれ2013年、2020年に完成し、事業全体としては30年の期間を要したようです。

千葉駅周辺といえば、人も多く、商業施設も多々ある

## ◆おわりに

駅前の魅力やにぎわいの低下は多くの自治体で抱えている課題であり、それは、千葉市のような大きく、知名度もあるような自治体でも例外ではないようです。そのような中、再開発事業による駅前整備は非常に大きな効果があると肌で感じました。事業は資金も時間もかかるものなので、当市で同様の事業を行うことは難しいものもありますが、ここで学んだ知識は、今後の業務に活かしていきたいと思えます。